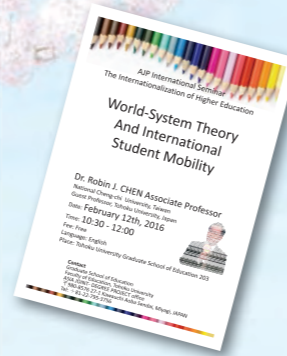


## 第10回国際セミナーを開催

2016年2月12日(金)、東北大学文科系総合研究棟2階203教室にて、本研究科の客員教員として滞在中の陳榮政准教授(国立政治大学・教育学院)を招き、国際セミナー「World-System Theory And International Student Mobility」を開催した。

陳榮政准教授は、本研究科が運営するAsia Education Leader Courseの特殊性に触れ、これまで世界システム理論で説明されてきた国際的な学生移動と異なり、既存の理論では説明できない動きが登場していることを指摘、域内移動を説明する新たなモデルの構築を目指す必要があることを強調した。陳准教授は、学生の国際移動を説明する新たなモデルとしてAEL Courseに着目している。AEL Courseは教育学・心理学を学ぶ大学院生を対象とするプログラムで、東アジアの域内移動を特徴とする短期集中周遊プログラムである。プログラムは英語で提供されているものの、現時点で学位取得が可能なものではないため、AEL Courseへの参加者はこれまで指摘されてきた留学動機とは異なる参加動機を持っているのではないかと推察される。これを明らかにすることが新たな理論構築への第一歩だといえる。陳准教授からは、そのためにAEL Course参加者へのヒアリング調査を進め、国際的な学生移動の新たな潮流を説明するTOHOKUモデルの構築を目指すべきであることが強調された。



## アジア共同学位開発プロジェクト5年間の実績

- 国際セミナー……………10回
- 国際シンポジウム……………7回
- 外国人招聘客員教員……………16名
- 外部評価……………4回
- 海外調査……………35回
- 国内調査……………14回

### 関連刊行物

- 実施報告書……………5冊
- シンポジウム報告書……………7冊
- 関連論文……………5本

### AEL Course

- AELC在籍者……………43名
- 修了者……………9名

## 2015年度下半期進捗状況 (2016年2月末日現在)

### Asia Education Leader Course

- AEL Course Winter Course 2016 2016年1月18日(月)~2月4日(木) 於:高麗大学校(韓国)

### 国際セミナー

- 2016年2月12日(金)、第10回国際セミナーを開催(宮城県・東北大学文科系総合研究棟2階203教室)

## AEL Course新カリキュラムスタート

AEL Courseでは、これまでの成果を踏まえ、2016年度4月から新カリキュラムを提供する。これまでKASPの各クラスターから1科目ずつ提供され、参加者はKASからそれぞれ1科目以上8単位、P科目を4単位分とることが修了条件とされていた。新しいカリキュラムでは、KASPのうちPの要素を科目のベースに位置づけ、K-P、A-P、S-Pに再編、参加者はそれぞれのクラスターから4単位ずつ合計12単位修得することとした。これまで通り所属機関がある地域以外において6単位以上履修するデザインは変わらない。AEL Course BrochureはAEL Courseサイトにてダウンロード可能。

<http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/aelc/top.html>



# AJP PRESS

ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

2016.SPRING

Vol.11

## アジア共同学位開発プロジェクト AELC国際ラウンドテーブル・調印式 AEL Courseの継続が決定

2015年12月5日(土)、アジア共同学位開発プロジェクトAELC国際ラウンドテーブルおよび調印式が東北大学で開催され、本研究科から高橋満研究科長ら関係者が出席した。

AELC(Asia Education Leader Course)とは、本研究科、国立政治大学教育学院(NCCU)、南京師範大学教育科学学院・心理学院(NNU)、高麗大学校師範大学(KU)、国立台湾師範大学教育学院(NTNU)の5大学6部局で運営される国際共同教育プログラムである。

AELCは東北大学大学院教育学研究科が、平成23年度から平成27年度の5年計

画で推進してきた「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として開発されたもので、東アジアの教育課題に対応できる国際的視野を持った指導的人材の養成を目指したものである。

AELC国際ラウンドテーブルでは、高橋満研究科長の挨拶に続き、安保プロジェクトサプリーダーによるAELC全体の振り返りが行なわれた。その後各連携大学からAELCの運営状況について報告がなされ、それぞれの実践を通して明らかになった成果と課題の共有が行なわれた。その後のディスカッションでは、各パートナー機関の役割の明確化、学生へ

の情報提供・広報の充実、地域ごとに異なる規則の調整(1単位当たりの授業時間数、単位認定)、学生への奨学金などの課題が指摘された。

AELCは本研究科が進めてきたアジア共同学位開発プロジェクトの終了までを第1期として運営されてきた。協議の結果、今後もAELCを継続することで合意した。ラウンドテーブルでの合意に基づき、AELCの運営に関する協定書の調印式が行われ、参加者が見守る中、協定書のサインと固い握手が交わされた。この度のラウンドテーブル・調印式を機に、連携大学と連携しさらなる研究・教育交流促進が期待される。尚、2016年度より2年間は本研究科が主管校としてAELCを運営し、2016年7月から8月に国立台湾師範大学にてSummer Course 2016が開催されることが決定した。参加者募集は2016年5月頃より開始する。詳しくはAELCサイトを参照。

<http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/aelc/top.html>

### AEL Course合同会議、調印式参加者名簿 (海外招聘者のみ)

	所属名	氏名	役職
1	国立政治大学 教育学院	陳 榮政	副 教授
2	国立台湾師範大学 教育学院	卜 小蝶	教授、副院長
3	国立台湾師範大学 教育学院	林 子斌	副 教授
4	南京師範大学 教育科学学院	胡 建華	教 授
5	南京師範大学 教育科学学院	王 強	副 教授
6	南京師範大学 心理学院	傅 宏	教授、院長
7	南京師範大学 心理学院	萬 榮佳	博士学生
8	高麗大学 師範大学教育学科	朴 仁雨	教 授
9	高麗大学 師範大学教育学科	金 恩珍	博士研究員

a.m.	0930-1000	Reception
	0930-1000	Opening remarks by Prof Mitsuru TAKAHASHI (Dean, Graduate School of Education, TU & Leader, Asia Joint-Degree Project)
	1010-1020	Participant and timetable introduction
	1020-1040	Overview of AJP and AEL Course by Assoc Prof Hideo AMBO (AJP sub-leader)
	1040-1100	Report on Summer Course 2014 by TU
	1100-1120	Report on Winter Course 2015 by NCCU
	1120-1140	Report on Summer Course 2015 by NNU
	1140-1150	Preparation of Winter Course 2016 by KU
	1150-1350	Lunch break (with a short tour on AEL student campus life)
p.m.	1350-1550	Roundtable discussion based on Supplement of Understanding
	1550-1620	Tea break
	1620-1640	Signing ceremony of Agreement on AEL Course
	1640-1645	Closing remarks by Prof Mitsuru TAKAHASHI



**AJP** ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

[www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/](http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/)

東北大学 大学院教育学研究科 アジア共同学位開発プロジェクト事務室  
TEL:022-795-3756 E-mail:ajp@sed.tohoku.ac.jp

# AEL Course Winter Course 2016を高麗大学校で開催



東北大学大学院教育学研究科では、「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として、AEL (Asia Education Leader) Courseを2014年から開催している。AEL Courseは連携大学が持ち回りで集中セミナーを開催する。2015年7月に南京師範大学(中国)で開催されたSummer Course 2015に続いて、2016年1月18日から2月4日までの18日間にわたりAEL Course Winter Course 2016が高麗大学校師範大学(韓国)で開催された。

Winter Course 2016には、東北大学の大学院生をはじめ、国立政治大学(台湾)、南京師範大学(中国)、国立台湾師範大学(台湾)から計19名の学生が参加した。学生は英語で開講されたTheories and Practice of Counseling(K)、Technology-Enhanced Classroom Environment(A)、Quantitative methods in Educational Research (S)、Comparative Study of Education(P)などの科目を受講した。各講義ではグループディスカッションやプレゼンテーションなどの課題が課されそれぞれの地域から参加した学生らが互いの姿に刺激を受けながら、視点の違いからたくさんを学んだようである。P科目では、フィールドワークなどのアクティブな活動が含まれており、学生はその土地でしか学ぶことのできない知を獲得した。参加記にあるように、参加者は授業以外の時間に他地域からの参加者と交流し、人的ネットワークを構築した。本学では本学からの参加者に対し、事

前に現地語(韓国語)を学習する機会を提供した。これは前回の南京師範大学での参加者アンケートにおいて、英語で開講する授業以外の時間は現地語での生活を余儀なくされ、簡単な読み書き、会話を事前に学習したかったという声から企画されたものである。出発直前に全5回、韓国語の読み書き・会話に関する講座を開講

し希望者がこれを受講した。

今回の韓国での開催をもってAEL Courseが日韓台中を一周したことになる。本紙一面にあるように連携大学間では2016年度よりさらに2年間AEL Courseを継続することが合意されており、2016年度4月よりあらたなスタートを切る。

## Schedule of Winter Course 2016

Date		Time	Activities	
18th Mon		10:00~11:40	Opening and Orientation	
J a n u a r y	19th Tue	09:00~17:00	S: Quantitative methods in Educational Research	Research Prof. Hyunjung Lee
	20th Wed			
	21st Thu			
	22nd Fri	09:00~17:00	P: Comparative Study of Education	Prof. Daebong Kwon
	23rd Sat			
	24th Sun			
25th Mon				
26th Tue	10:30~15:00	Seoul Visit	Research Prof. Jungjoo Kim	
27th Wed				
28th Thu				
29th Fri	09:00~17:00	K: Theories and Practice of Counseling	Prof. Sangmin Lee	
30th Sat				
31st Sun				
F e b r u a r y	1st Mon	09:00~17:00	A: Technology-Enhanced Classroom Environment	Prof. Innwoo Park
	2nd Tue			
	3rd Wed			
	4th Thu			

## AEL Course Winter Course 2016 参加記

### ●小玉 純子

AELCに初めて参加して、とても刺激的な10日間を過ごすことが出来た。比較教育(Comparative Study of education)の授業は、アジア各国の大学院生が集まって教育問題について考えるというAELの特色を直接的に感じられる授業であった。各国の教育制度を比較し、その中で生じている問題について議論したことで、自国の中では当然のように捉えてしまう日本の教育制度や、日本の教育における文化的背景を改めて検討しなおし、より広い視野から日本の教育の在り方や今後の方向性について考えを深めることができた。また、日本の教育についてのプレゼンテーションをした際の他国の学生の反応から、日本の教育が他国の目にはどのように映るのか、どこが優れており、どこに改善点があるのかといった視点を吸収できたことは大変有意義であった。

AELを通じて、先生方による講義内容だけでなく、参加した他国の学生との交流も非常に刺激的なものだった。教育というトピックを通じて、初対面のアジアの学生と議論することの難しさを感じた一方で、その楽しさも知ることが出来た。

はじめは、他大学の学生の、自分の意見をまとめて主張する能力の高さと英語力の高さに圧倒されてしまった。しかし、次第に自分自身でも考えを伝えられる場面が増え、自分の意見を主張しては他者の意見を吸収するということの繰り返しの中で、議論が深まっていく過程を体験できたことは非常に面白く、貴重な体験ができたと感じた。

### ●中村 和人

A科目(Technology-Enhanced Classroom Environment)は、子どもたちの学習を促進するためにはどのような学習環境が必要かを考えチームごとに「未来の教室」と題してプレゼンテーションを行った。既存の教室環境にとらわれずソフト面・ハード面のデザインをした経験は、私が教員になってからも役立つものであると感じた。

全体を通して、今回は数多くの韓国人大学院生が高麗大学から参加したために、前回までのAELCとは異なり、韓台中日の多様な観点から意見を出し合い学習を深めることができた。また教室内外での白熱した議論を通じて他国の多くの大学院生と交流を深めることができた。もちろんAELCで学んだことも重要なのであるが、AELCで得られたこうした「つながり」は各自が今後どのような道に進もうとも重要な財産である。こうしたつながりを維持し、さらに発展させていきたい。

### ●梁 静

韓国のソウルで冬を過ごすのは初めてで、氷点下20度と聞いても、仙台に比べたら、ただ数字の差としか受け止めることができずにいた。ソウルで、学校の外を歩いているうちに、呼吸する時に吐いた息がマフラーの周りで凍っていることに気づき、驚いた。

授業については、若干難しさを感じた。今の私の言語能力を分析してみると、中国語→日本語→英語の順番で、徐々に弱まっている。今回の授業で、英語が必要不可欠であることをしみじみと感じた。もう一つ、私の専攻は教育学ではなく、文化人類学ということもあって、統計、比較教育、教室設計などの授業に、ついていけないと思う時があった。専門知識のことだけではなく、プレゼンには常に課題として課せられるため、PPT制作のスキル、速さ、内容の充実さ及び自分自身のアピール能力などはいつもより厳しく求められた。今回の経験を通して、自分の足りない点を意識することができ、今後の学習に向けていいスタートが切れると思った。

### ●登坂 如恵

今回のAEL Courseでは事前に韓国語講座が開かれ、韓国語の基本的な書き方や読み方、挨拶について学ぶ機会がもうけられていたことで、現地のことばをあらかじめ学んでいく必要があったという前回の南京師範大学での自分の反省を改善することができた。実際に韓国では流暢に話すことは全くできなかったが、標識や建物の名前、食べ物などを読むことができたため、現地でのトラブルを最小限にすることができたのではないかと考えている。

